

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 2 月 18 日作成)

委員会名	鋼構造設計規準見直し小委員会	主 査 名：木村 衛
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (鋼構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：小野徹郎
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>鋼構造設計規準を許容応力度設計法の観点から見直し、「鋼構造設計規準・同解説 - 許容応力度設計法 - (仮称)」を刊行する。</p> <p>2003 年度：見直しのための基本方針の策定、調査・検討、素案の作成。</p> <p>2004 年度：規準本文・解説の執筆、各委員分担分の全体調整、脱稿、規準の刊行。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>主査：木村衛(新都市ハウジング協会)</p> <p>幹事：田川泰久(横浜国大)</p> <p>委員：青木博文(横浜国大)・五十嵐規矩夫(東工大)・伊藤茂樹(JFE)・井戸田秀樹(名工大)・小野徹郎(名工大)・桑村仁(東大)・多田元英(阪大)・田中敦夫(東京電機大)・中島正愛(京大)・中込忠男(信州大)・増田浩志(宇都宮大)・山田丈富(千葉工大)・三村博明(東京電機大)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2003 年度予算	370,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<p>第 1 回(2003/5/8・9 名) 見直し方針、2 次原稿の検討。第 2 回(7/16・10 名) 3 次原稿の検討、委員間の査読開始。第 3 回(9/26・9 名) 4 次原稿、序・本規準の位置付け等検討。第 4 回(11/19・10 名) 5 次原稿の検討、解説の充実。第 5 回(2004/1/30・11 名) 6 次原稿の検討、見直し方針の最終決定。3 月に向けて最終原稿の作成作業。</p>
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>本年度内にて、「鋼構造設計規準・同解説」に対する小委員会レベルの見直し最終原稿が完成する見込みである。</p> <p>30 年以上見直しの無かった本規準について、以降刊行されてきた他の諸指針類との位置付けを明確にし、「許容応力度設計法」の立場から内容が検討されている。従って他の諸指針類とともに、学生、研究者、構造設計者等に対し有益な図書の一つとして、供されるものとする。2005 年 6 月の刊行予定である。</p> <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>上記の成果に対し、目標は充分達成されていると考える。またスケジュールにおいても 2004 年 10 月運営委員会、構造委員会の査読終了予定となっており、本年度内小委員会レベルの脱稿で、全く問題はない。</p>
その他評価すべき事項	<p>見直しの段階において「旧鋼構造計算規準」の内容を考慮し、諸式の根拠や出典等、解説の充実を図るよう心掛けている。</p>